

## 子どもの本だな 22

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

## はちうえはぼくにまかせて

ジーン・ジオン さく マーガレット・ブロイ・グレアム エ  
もり ひさし やく (ペンギン社)

夏休み、トミーは旅行に行く人たちの鉢植えを世話することにしました。家はあつという間に鉢植えだらけ。この植木は日かげに、こっちの植木は水を少しだけ…植物に詳しいトミーの世話で鉢植えはどんどん大きくなり、家の中はまるでジャングルの様になりました。

ある日、トミーは鉢植えが大きくなりすぎて家が壊れてしまう夢を見ました。トミーは図書館へ行き、本で調べた通りに鉢植えを剪定しました。旅行から帰ってきた人達は「前よりも元気で素敵になった!」と喜びました。

自分で考え工夫するトミーや、ページいっぱいの植物が、柔らかな線と青・黄・緑で生き生きと描かれます。ジャングルの部屋で楽しげなトミーと怒り顔のお父さんが食事をしたりテレビを見る様子は愉快です。読んでもらえれば4,5歳から。

(池之上)

## ハイジ

J・シュピーリ 作 矢川澄子 訳  
パウル・ハイ画 (福音館書店)

両親を亡くし叔母に育てられたハイジは、アルプス山中の祖父の小屋で暮らすことになりました。ハイジは金色のチーズやしぼりたてのやぎの乳、干草のベッドをすぐに気に入り、真っ赤に燃え立つ山の夕焼けに目を見張りました。冬には、やぎ番ペーターの盲目のおばあさんに山の話聞かせ、おじいさんに頼んで傷んだ家をなおしてもらうのでした。ところがある日、ハイジは突然フランクフルトにやられ、病弱な少女クララの遊び相手として街中のお屋敷で暮らすことになりました。建物がひしめく街での気難しい家政婦たちとの窮屈な暮らしに、ハイジは次第に元気をなくしていきました。

周囲の喜びや悲しみをわがことのように受け止めるハイジが、人を遠ざけて暮らしてきた祖父の心を開き、助けを借りながら、周囲をなぐさめ喜びをもたらします。アルプスにやって来たクララが、ハイジたちの肩を借りて歩きはじめる場面は感動的です。11歳位から。

(片木)

8月	9月	8月・9月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
6日	10日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	17日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	24日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

## お知らせ

「夏休み特別  
おはなしと詩の時間」

日時：8月21日(金)

- ① 4歳~大人 18:00~
  - ② 小学高学年~大人 18:30~
- ろうそくの灯りのもと、昔話や詩を楽しみます。①は詩とおはなし、②は詩の暗唱です。

途中からは入れませんので、時間に遅れないようにお越しください。

『エフィー・グレイ ラスキン、ミレイと生きた情熱の日々』

スザンヌ・フェイジェンヌ・クーパー 著

岩波書店 384, 21 頁 2015 年 5 月刊 3,400 円 (請求記号) B グレ

十九世紀半ば、ヴィクトリア女王のもと世界を手中に収めていた大英帝国、美術界ではラファエロ前派の芸術家たちが台頭していた。その一翼を担ったのが芸術評論家として名声を得たジョン・ラスキン、そしてラファエロ前派の画家の中でも突出した才能を持つていたジョン・エヴァレット・ミレイである。エフィー・グレイはこの二人を夫とした。

エフィーは愛情豊かなグレイ家で快活で美しく育ち、評論家として頭角を現しはじめたジョン・ラスキンと結婚する。エフィーが憧れた社交界への華々しいデビューの一方で子どもを持つことを嫌がったジョンの態度はエフィーを悲しませた。そんな時ジョンの勧めでエヴァレットのモデルを引き受ける。エヴァレットはエフィーの持つ魅力を絵の中で最大限に描いたのだが、それは新しい時代の女性像であり、社交界から疎まれる原因になった。ジョンと別れることを決め、疲れ果てたエフィーをエヴァレットが救う。結婚した二人は多くの子どもを授かりエフィーは自分が望んだ愛情豊かな家庭を築いていく。エヴァレットの絵画の実力は社交界で重んじられ、エフィーは再び社交界に入り、得意の社交術でエヴァレットの地位を固めていった。

エフィーが家族や友人に宛てた多くの手紙から著者が丁寧に描き出した評伝。ヨーロッパ各地の社交界や古き良き時代の文化に触れ、華やかな暮らしの中にいたかのようなだが、その半生は苦しみとの戦いだったことがわかる。馴染みある名前、ビアトリクス・ポターやロセッティ、オズカー・ワイルド、ターナー、ウィリアム・モリスなどが登場し、この時代に生きていたこれらの人物が身近になる思いも味わえた。

(西村)

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	<del>3</del>	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	<del>17</del>	<del>18</del>	19	20	21	22
23	24	<del>25</del>	26	27	28	29
30	<del>31</del>					

9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		<del>1</del>	2	3	4	5
6	<del>7</del>	<del>8</del>	9	10	11	12
13	14	<del>15</del>	16	17	18	19
20	<del>21</del>	<del>22</del>	23	24	25	26
27	<del>28</del>	<del>29</del>	<del>30</del>			

カレンダーの×印は休館日です。開館は 10 時～18 時まで。金曜日は 20 時まで開館しています。

地下水

夏休みの課題のなかでも特に憂鬱な気分になされた読書感想文と人権作文。いまだに何をどう書けばいいのか分からない。「本の感想なんて原稿用紙 2 枚もない。」「人権ってなに？」といつも戸惑った。なので、小、中、高校と、休みの終盤にやっとな手をつけるという状態だった。苦手なものは気にしつつ、後回しという習性はいまも変わらず、損している気分になる。そんなものの存在をすっかり忘れて過ごせばいいのに、やらないといけないという焦りはいつも感じてしまうのだ。

ところが、小学 5 年生の読書感想文はコンクールに出され、賞をもらった。選んだ本は『バーバちゃんのおまじ』という絵本。どんなことを書いたかは覚えていないが、五年生だけど、絵本でもいいのか、とぼんやり思ったことは覚えている。

本を読んで感想を文字にするということは、みなに必要なことなのだろうか。多くの子が、感想文を書きやすい本を選び、感想をひねり出すために文字を追っているのではと、わが身を振り返りながら思う。夏休みにいろんな本を楽しみ、その中で、これなら書けるといふものに出会えれば書く、というくらいに位置づけならいいのに。

(竹内)

